

学校長への聞き取り調査結果

調査結果

- 学校では、日々いろいろな課題と向き合い、市町や地域と連携しながら、各種対応が行なわれていること。
- 学校からの要望には、生涯学習・社会教育に関することも相当数あること。

調査内容

1 調査概要

調査票2及び3による調査に協力のあった学校のうち6校について各教育事務所が訪問・面接により、学校の対応状況や課題・要望等について聞き取りを行った。

2 実施期間

9月14日～10月4日

3 調査の結果

(1) 学校の特徴

① 地域との連携・協力

- ・ 統合後数年が経過している。校区に複数の公民館があり、全ての公民館行事に学校側が参加することは難しく、学校・PTAとして公民館との連携・協力については模索中である。
- ・ 児童は、地元の公民館以外の公民館の地域行事にも積極的に参加している。また、運動会で地域の競技がなくなったものの児童数が増えたことにより活気ができ、地域や保護者の方に喜んでもらっている。
- ・ 4～6年生は校区の複数の婦人会と一回ずつ交流活動をしている。
- ・ 公民館、社会福祉協議会、まちづくり協議会との連携が主である。
- ・ 学校の教育活動に対して積極的に協力していただいている。
- ・ 子どもたちを大切にしようという姿勢の方が多い。
- ・ 地域との連携には心がけているが、機会が少なく不十分である。しかし、協力依頼をすれば快く協力してもらえる。
- ・ 昔から住んでいる方と、新しく入って来られた方との学校に対する考え方に違いがある。(新しく入って来られた方は、学校への協力についての関心が薄い。)
- ・ 歴代PTA会長・副会長、歴代校長・教頭、現職校長・教頭で構成する住民の集まりや学校評議員、見守り隊を中心に地域との連携は非常に強い。
- ・ 多くの生徒が積極的に地域行事に参加している。(敬老会での受付、盆踊り大会の屋台の手伝い等)
- ・ 学校行事への地域住民の参加が多い。
- ・ 校区は広いが、戸数は少ない。
- ・ 校長自身が地元住民かつ自治会の役員で、地域の実態や住民のことをよく把握している。
- ・ 公民館や社会教育関係団体、その他の諸団体とのつながりも深く、地域の協力を得ながら学校教育の推進に当たっている。

② 児童・生徒の生活態度

- ・ 目立った問題行動は見られず、通学路ではない所を通っている子がいるなどすると、地域の方が連絡をしてくれる。
- ・ 落ち着いて秩序ある行動がとれる児童が多い。
- ・ 全体的に素直でまじめであるが、受け身的な態度で生活している児童が多い。
- ・ 大きな問題を起こす児童・生徒は現在のところおらず、全体的に落ち着いている。
- ・ 不登校傾向の児童はどの学年にもおり、注視しながら配慮している。
- ・ 家庭的にしんどい子どもはかなりいる。
- ・ ネグレクトではないかと思われる家庭があり、食事を与えなかったり、風呂に入らせていなかったりする日があるが、子どもは学校では元気に過ごしている。
- ・ 優しい子が多く、生徒指導上の問題も少ない。
- ・ 上学年ほどしっかりしていて、先輩を見習いたいという風土がある。
- ・ 生徒が活躍する場が多い。特に人権劇・体育祭の創作ダンス・音楽祭等、上級生が下級生に良い影響を与えている。
- ・ 配慮生は一人である。

③ 保護者の様子

- ・ 統合に向けてPTAが数年間話し合いを続けてきた結果、スムーズな運営ができていて、PTAが生徒指導面でも、見守りや協力をしてくれる。
- ・ 困難な家庭への支援をPTAが担ってくれる場合があり、学校からは言いづらいことを、PTAとして言ってくれることがあり助かっている。
- ・ 学校行事へ父親が多く参加し、協力的である。
- ・ 概ね、理解があり協力的である。
- ・ 共働きの家庭がほとんどであるため、PTA活動へ十分な参加が難しい保護者が年々増えている。しかし、PTA総会や参観日への出席率は高い。
- ・ 教育に対する意識が高い保護者は多いが、「しつけ」面ではあまいと思われる保護者も見受けられる。
- ・ 学校に対して批判的な保護者もいるが、現在のところ数は少ないと思う。
- ・ ひとり親家庭の子どもが、各クラスに何人かいる。
- ・ 市の保健福祉課や児童相談所に相談している家庭がある。
- ・ 生活保護を受給するよう連絡を取るが断られる家庭もある。
- ・ 給食費や校納金の不払い家庭もある。
- ・ 保護者は協力的であるが、新興住宅地の保護者の行事参加が少なく、横のつながりが希薄化している。
- ・ 給食費未納家庭はない。

(2) 学校生活の中で懸念される貧困に関する子どもの状況

① 学習状況

- ・ 生活に困窮している家庭の子どもの中には、学習習慣が身に付いておらず、落ち着いて学習に取り組めない児童もいる。放課後や夏休みの補充学習で学習習慣を身に付けるよう努めている。
- ・ 学習用具の忘れ物があったり、学習意欲が低かったりする子どももいる。
- ・ 貧困というほどの家庭はないと思われるが、要保護家庭はある。
- ・ 学力の面では特に劣っているとは思われないが、生活面では同じ服を着て登校したり、お風呂に入っていない子どもの事例がある。

- ・ 家庭的な問題から、長期欠席の生徒がいる。情緒不安定、学力不振が心配である。家庭訪問等で家の様子を把握し、学校全体で情報を共有し、複数の教師の目で生徒や家庭を見守る体制をとっている。
 - ・ やや不登校傾向であり学習も遅れがちなお子もいる。
- ② 健康状態
- ・ 朝食を食べていない子どもがいて、給食をよく食べる。担任を中心に家庭の状況を把握し、養護教諭と連携して関わっている。
 - ・ 遅刻がある。
 - ・ アレルギーや肥満の傾向がある。
 - ・ 運動をする児童は多いと思う。
 - ・ 貧困による健康面での心配は特に感じていない。
- ③ 家庭の教育力(保護者との関係)
- ・ 支援を要する子どもについて、保護者からの通級指導教室への入級希望により、個別のペースで学習や生活を送ることができ、より良い環境で学校生活を送れるようになった。
 - ・ 家庭の教育力がかなり低く、関係機関にサポートしてもらっている。そのため、学級担任は常に保護者と連絡を取り合っている状況である。
 - ・ 教育力の高い家庭と低い家庭の差が大きい。
 - ・ 保護者の教育に対する意識は高いと思う。協力的な保護者が多い。
 - ・ 親のストレスが子どもに影響することがある。それは、仕事や子育て等のストレスを溜め、相談できる相手がいないため精神的に疲れている母親が多い。そのため教職員がそのような状況を感じたら、すぐに管理職に報告し、いつでも相談に乗る体制にしている。相談を受けた場合は、受容的に話を傾聴し、保護者が抱える悩みに応じた情報提供や、他機関（児童相談所、スクールソーシャルワーカー、市役所担当課等）との連携を行っている。
 - ・ 明らかに個別の支援が必要な生徒であるが、特別支援教育に対する保護者の偏見から支援を受け入れない家庭がある。
 - ・ 家庭によっては、家庭教育や子育てに関心が薄い場合がある。
- ④ 地域の教育力(地域とのつながり)
- ・ 主任児童委員が配慮の必要な家庭と関わっている。学校と地域で双方向の情報交換が可能となっており、課題を共有しながらきめ細かな指導ができています。
 - ・ 家庭生活が困難な家庭には、市の子育て支援課を紹介することもある。
 - ・ 地域とのつながりが弱く、孤立傾向にある。
 - ・ 地域の方々は学校に対して協力的であり、よく支援していただいている。
 - ・ 現在は地域の教育力は高い方だと思っている。
 - ・ 貧困問題に特化したことではないが、地域から校区内の家庭の様子を情報提供してもらっている。また、交番の駐在所員が学校行事に参加してくれるなど学校に協力的で、防犯に関してもよく見てくれている。
 - ・ 地域からも様々な情報をいただいて指導に活かすことができています。
- (3) 学校が求める子どもに対する地域や生涯学習・社会教育の支援
- ① 学習面での支援
- ・ 役場によっては生活保護家庭の生徒を対象に学習支援を行っている。また、教育関係団体が読書感想文や自由研究の指導をしてくれている。

- ・ 生きる力を育む教育活動の実現のために、体験学習や地域学習等でサポートしてほしい。
 - ・ 長期休業中に学習の支援をする機会や場(希望参加)があれば助かる。
 - ・ 教師が放課後や夏休みの補充学習を行っているが、地域の方々などが協力してもらえるとありがたい。
- ② 健康面での支援
- ・ 保健師が困難な家庭に定期的に訪問することができれば、虐待やネグレクト等が危惧される場合にも迅速に対応できる。
 - ・ 安全面では、現在、見守り活動が活発に進められている。ぜひ、これからも継続してほしい。
- ③ 家庭の教育力(保護者との関係)の面での支援
- ・ 地域の先輩やおやじの会が、学校に批判的な保護者の話を聞くなど、学校をフォローしてくれる。
 - ・ 地域の活動に積極的に保護者を巻き込んでほしい。
 - ・ 地域にお世話になっているという感覚、「地域の子どもは地域で育てる。」という意識が低い。
 - ・ 保護者や地域の大人を対象とした学級(社会教育的な内容)を継続的に実施することが望まれる。参加者は少ないと思うが、リーダー養成を考えると必要であると思う。イベントだけでは大人の教育力は高まらない。((4)④に再掲)
 - ・ 学校としてのサポートはもちろん、市の保健福祉課や児童相談所との連携を図っている。
 - ・ 民生委員、主任児童委員、市役所関係課等が心配な家庭に訪問や連絡を取ってくれている。今後お願いしたい。
 - ・ 教職員が共通理解のもと学校全体で取り組んでいる。
- ④ 地域の教育力(地域とのつながり)面での支援
- ・ PTAのOB・OGが、学校を前向きにアピールしてくれるため、学校に対する地域の理解が高まっている。
 - ・ 子どもの健全育成につながる地域活動を充実させてほしい。地域の伝統文化や祭り等に積極的に関わる子どもを育ててほしい。
 - ・ 保護者や地域の大人を対象とした学級(社会教育的な内容)を継続的に実施することが望まれる。参加者は少ないと思うが、リーダー養成を考えると必要であると思う。イベントだけでは大人の教育力は高まらない。((4)③に再掲)
 - ・ 家庭教育支援グループが市にあり紹介はするが、相談するのが恥ずかしい(相談しづらい)のか相談した事例はない。
 - ・ 防災に関する連携を望む。
 - ・ 家庭や生徒についての様々な情報を提供していただくようお願いしている。